

膿尿・血尿・乳糜尿

「膿 ウミ」とは多量の好中球によって薄黄色味を帯びて白濁した粘調液状物をいう。傷が「膿んだ」なら、黄白々色の濁ってドロツとした液状物が傷口にある。サラサラの透明液体では膿んだとはいわない。むかし昔から日本ではそうなのである。膿瘍も膿胸も膿がある。だから、膿が出てこなければ膿瘍でもなければ膿胸でもない。

膿は古来から見た目の肉眼所見である。見た目に白濁した尿でなければ膿尿ではない。膿んでしまった尿が膿尿だ。血尿でも血胸でも血腫でも同じこと。胸水に赤血球が僅かに混ざっていても見た目が血でなければと血胸ではない。たとえリンパ液が混ざっていても、見た目乳糜でなければ乳糜尿ではない。脂肪に富んで白濁してなければ乳汁ではない。ついでに、白濁尿＝膿尿ではない。塩類尿も脂肪尿も白濁する。

ところが、である。カンファレンスで膿尿というから当然膿尿だと思っているとそうではなくて、白血球が10ヶ/mm³以上、沈査つくらずして3ヶ/視野以上あれば膿尿というのだそうである。なんとムチャなことを。数個の赤血球が顕微鏡下で見えただけで血胸とは金輪際いわない。見た目血が混じっていない黄褐色の便は、潜血反応陽性でも血便ではない。顕微鏡下に赤血球があつたら赤血球尿ではあるが血尿ではない。肉眼では血ではないが遠沈すると赤血球の層が下にみえてくるくらいに無数にあると、顕微鏡的血尿と言ったりすることはある。

どの国のテキスト文献か知らないがコトバの規則を放棄した。

白血球10ヶなら白血球尿ではある。イコール膿尿ではない。なにしろ白血球尿でも、好酸球では好酸球尿であり、リンパ球ならリンパ球尿である。好中球でなければ膿尿ではない。白血球の種類区別も頭がない。白血球尿≠好中球尿≠膿尿である。